

達磨祭

合掌

先日は、道院の達磨祭に多数の参加とご協力を頂きありがとうございました。

当日は、朝9時に集合し、全員で作務(道場の掃除)を行い、10時より達磨祭を行いました。教典唱和、祭詞奉読、献香と厳かに式典は進み、坂本拳士と伊達拳士による奉納演武も行われました。伊達拳士は体調のすぐれない中、演武を最後までよく頑張ってくれました。私の方からは法話として、達磨祭の意味と達磨大師についてのお話をさせていただきました。いつもながら、少年拳士達も、話を「耳と目と心」で聴いてくれています。うれしいですね。

厳かに執り行われた達磨祭の後は、大岩拳士企画の「運用法大会」を行いました。大岩拳士にはメダルまで準備してもらいました。少年拳士達は、運用法大好きですね。たいへん盛り上がりました。もちろん、一般拳士、それに、今日だけ女性拳士の中学生も頑張っていましたね。拳士の皆さんお疲れ様。

午後は、懇親会を行いました。懇親会には、何日も煮込んでくれたモツの煮込み、手作りのカレーやチキンカツ、おにぎりや漬物など、お母さんたちの手作りの料理で、大いに盛り上がりました。お茶、お酒などの差し入れもありました。また、食材やおつまみ、お菓子、紙コップや紙皿などの準備にも影になって働いてくれた人たちがいます。こうした会が出来るのはそうした多くの支えがあってということをお忘れはいけません。紙面を借りまして、改めてお手伝いいただいた方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。そして、また、これからもご協力よろしくお願いいたします。

食事後は、少年部の子ども達も、鬼ごっこなどして遊んで、楽しく過ごしていたようです。一般拳士やお母さんたちは、あちらこちらで話が尽きません。一応、3時で中締めをしたのですが、ほとんどの方が残って、夕方まで楽しく過ごしていました。さいたま桜道院として、初めての達磨祭、お蔭様で無事滞りなく行うことができました。ありがとうございました。

さて、なぜ金剛禅総本山少林寺で達磨大師を祭る「達磨祭」を行うのか。達磨大師といえば、起き上がりこぼしの達磨さんで親しまれているあの達磨です。「七転び八起き」というときにも、よく例として出されます。達磨大師には様々な伝説が残っています。石の上で何年も坐禅の修行を続けたのでどうも足が無くなってしまったという伝説からあのような形になりました。また、達磨大師を描いた掛け軸には、笹の葉に乗ったものが多いのですが、それは、インドから中国に来る途中の大河を、笹に乗って渡ってきたという伝説からです。いずれにしても、日本人にとっては、大変なじみ深い人物です。達磨大師は禅宗の祖として有名ですが、嵩山少林寺に拳技を伝えたのも達磨大師だと伝えられています。

少林寺では、達磨大師を本尊としています。それは、開祖宗道臣先生が、戦時中に中国で拳技を習った師が、嵩山少林寺の僧侶であったという縁で、嵩山少林寺を訪れ、印可を受けたこと、また、様々な人種の人々が楽しそうに演練している少林寺の壁画から、人作りの道としての少林寺拳法のヒントを得たということ、そして何より、日本の復興の為に何かしたいと右往左往していた時、夢枕に達磨が現れたことを、達磨が自分について来いと道を指し示していると感じ、少林寺拳法を始めるきっかけとなったからです。

今年もあと2か月。達磨大師の「七転び八起き」「不撓不屈」の精神をしっかりと受け継ぎ、健康に気をつけながら、修練に励んでいきましょう。

結手

連絡事項

1 全国大会入場整理券について

いよいよ全国大会が3日後となりました。さいたまスーパーアリーナで行われます。多くの人に少林寺拳法を知ってもらう良い機会です。出場しない方も、ぜひ、当日会場に足を向けていただき、大会を盛り上げていきましょう。その際、入場整理券が必要ですので、梶谷までご連絡ください。

「全国大会入場整理券 1枚 1000円」です。よろしくお願いいたします。